

〈資料〉

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究

国語科 学習指導案



1. 単元（題材）名、学年 「故郷」（光村図書 3年）

2. 単元（題材）の目標

- ・場面や登場人物の設定に着目して、内容を読み深める。
- ・時代や社会の変化の中での人と人との関わりについて考えをもつ。

3. 教材観

「故郷」は、中国近代文学の父とよばれる魯迅の作品である。二十世紀前半の中国が舞台であり、現代の中学生には理解しにくい部分もあり、丁寧な読み取りを行わせたい。また、中国にルーツをもつ生徒もおり、時代背景となる当時の中国の状況について、正しい情報を与え誤った認識をさせないように留意する。本教材は「握手」に続く、文学的文章である。1年次に「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」「少年の日の思い出」、2年次に「アイスプラネット」「盆土産」「走れメロス」を学習し、情景描写や人物描写に着目して心情の変化をとらえてきた。本教材では冒頭と回想での対照的な描写の記述に着目させ、「わたし」の心情変化について考え深めさせていきたい。

4. 児童・生徒観

本校の生徒は、本校校区の取組である「学び合い」を通じた学習に小学校より取り組んでおり、中学校においても日常的にペアや4人班での学習に取り組んでいる。「学び合い」では、自分の意見を相手に伝え、また相手の考えを聞くことで自分の考えに深まりを持たせることや、自分一人の力では解決できない問いをペアや班の力で解決することを目指している。生徒にとって、学級の友だちは共に課題を解決するための仲間であり、自分の考えを確立するために必要な他者であるとの考えを持ち、そのことが「深い学び」の獲得に役立っている。

5. 指導観

(1) 指導にあたって

「握手」では、人物像をとらえる学習に取り組んだ。また、題名やキーワードをとらえ、それらが象徴しているものについて班で考え深めてきた。本単元では、単元を貫く問いとして「場面や登場人物の設定に着目して読み深める」ことを設定しており、前半の丁寧な読み取りが、最終的に設定の意図という単元を貫く問いにつながるように計画した。家庭学習として調べ学習を設定しており、事前に調べたことが学習の理解を助け、対話の深まりを生むように促したい。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために

単元の目標を自ら定め、家庭学習に取り組むことで主体的に学習に取り組みやすくする。またペアでの確認や「学び合い」の学習を通して他者との対話を図り、発問に対する答えを必ず本文を根拠として考えることによりテキストとの対話を図りたい。結果、それらが複合して深い学びの創造へとつながっていくよう単元計画を立てている。

前単元である「作られた「物語」を超えて」の学習では、班で学習計画を立て段落ごとの要点を抜き出す学習に取り組んだ。教員が教えすぎないように「待つ」ことに留意し、自分たちで発見させることを目指し適切な支援を行いたい。

6. 単元（題材）の評価規準（現行学習指導要領に対応）

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
作品中の時代や社会の特徴を読み取り、登場人物の生き方を考えようとしている。		作者が意図したものと効果について自分の考えを持ち、適切に表している。	現在と回想の場面の描写の違いに着目して、その意図と効果を読み取っている。	作品中の語句を適切に用いて自分の考えを表現する助けにしている。

7. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

（1）単元を通じて育みたい子どもの姿

- ・難しい問いに粘り強く取り組み、共に考えを創りあげ協働して問題解決に取り組む子ども。
- ・描写の書き分け方に着目して心情の変化を読み取り、作者である魯迅の意図を追究する子ども。

（2）指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準【観点】
第1時	「故郷」の全体像を捉える。	読 登場人物や場面の設定を捉え、物語の構成について考えている。
第2・3時 (本時)	描写の違いに着目して心情の変化を読み取る。	読 場面ごとの描写の違いを比較し、中心人物の心情の変化を読み取りワークシートに記入できている。
第4時	クライマックスを捉え主題を考える。	読 中心人物の変容と作者の意図するものを読み取り、自分の言葉で伝えることができる。 言 作品中の語句を適切に用いて自分の考えを表現している。
第5・6時	登場人物の人物像を捉え、作者の意図や効果を分析する。 登場人物を一人選び、その設定の意図と効果についての自分の考えを書く。	読 人物描写の変化を読み取り、その意図と効果を伝え合うことができる。 書 作者の意図と効果について自分の考えを持ち、適切に書き表すことができる。
第7時	互いに作文を読み合い、深め合う。	関 描かれた時代や社会の背景を読み取り、登場人物の生き方について自分の考えを持とうとしている。

8. 本時の展開

（1）本時の目標

- ・「わたし」の心情の移り変わりを比較し、分析しよう。

（2）本時の評価規準

- ・文章の構成に着目して、「わたし」の心情の変化を捉えることができる。
- ・物語の全体を通して心情の変化を比較分析し、図表化することができる。

（3）本時の判断基準

十分満足できる	おおむね満足できる
図表化した「わたし」の心情の変化を、本文の語句を根拠として考えることができる。	「わたし」の心情の変化を図表化し、違いと理由を自分の言葉で説明することができる。

（4）努力を要する子どもへの具体的な支援

- ・回想場面と現在の描写の違いに気づかせ、そこから心情の変化を読み取れるよう例示する。
- ・「星の花が降るころに」（1年次既習）での学習内容を復習し、図表化につなげる。

(5) 本時の学習過程

STANDARD	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
出会う	導入	○ペアで前時のふり返りと本時の学習目標の確認を行う。	・学習点検表をもとに学習の見通しを立てさせる。	・机間巡視
結び付ける	7分	○各班の学習の進捗を確認する。	・他の班の進め方を知り、本時の学習に役立てられるようにする。	
向き合う	展開	○各班での学習計画に沿って以下の学習に取り組む。 ・班で各自一文ずつ回し読みする。 ・できごと、回想の部分を捉える。 ・心情の変化を図表化する。	・進め方のモデルを示すとともに、 どうして どこから カードを掲示し、常に本文に戻って考えるよう指導する。 ・「わからない」状態を打開する声かけを示すと同時に、各自が考える時間を保障することの大切さも伝える。	・机間巡視 ・ワークシート
つなげる	35分	○他の班との交流時間を取り、自分たちの考えと比較する。	・答えだけを探すのではなく、理由と根拠を追究し深めるようにする。	・机間巡視
振り返る	まとめ 8分	○次時の学習内容を確認し、本時の内容との関連を伝える。 ○1時間をふり返り、わかったこと・できたことを具体的に点検表に書く。 ○不十分であったことやわからなかったことがあった班は、次時に向けて必要な家庭学習を話し合う。	・「心情が最も変化したところはどこであったか」について次時に深めていくことを点検表を使って確認する。 ・交流を通して考えが変わったこと、考えが深まったことを書くように伝える。 ・自発的な学習に取り組めるよう、班を回り支援する。 ・他の班の取組を紹介し、互いに高め合えるように支援する。	・学習点検表 ・学習点検表 ・机間巡視